

釧路会場

札幌から訪問した成果が商品となり、ラジオ、新聞でも紹介されました。

レモンマートルというオーストラリア産のハーブでつくった商品を企画・販売している札幌のクレイグ・パークヒルさんが、釧路の例会で出会ったのが、パン屋さんのヴォールを経営している斎藤姫美子さん。早速、このハーブ入りの食パン、ロールパンを販売し、大変好評だそうです。有機栽培、無農薬のハーブが、無添加パンに採用され、日本でたったひとつのパンができました。地元FMラジオや新聞でも取り上げられました。開設2年で会員200社を超えた釧路に華を添える話題です。



左から、釧路・小杉代表、斎藤さん、札幌・パークヒルさん。



郡山会場

シンボルの「招き猫」がゲストとビジネスチャンスと呼び寄せるか。

「なんといっても、役員体制を確立し、会員拡大目標を達成する」という松本四郎会長の言葉どおり、順調な自主運営を始めた郡山会場で、ステージ正面に大きく掲げられているのが、「招き猫」。多くのゲスト参加とビジネスチャンスと呼び込むための福島県だけのシンボルとして定着しています。



山形会場

欠席者から祝電。会員のマナーとけじめがうかがえます。

どうしても外せない出張のために「欠席」の連絡をしていた、建築設計事務所社長の遠藤昭五さん。例会当日に祝電が届きました。「今度の例会が、会員皆様相互の仕事に結びつく例会になりますよう、心よりお祈り申し上げます」

各地区の役員さんの共通の悩みは、会員からの出欠の連絡が遅いこと、そして例会当日になってからの欠席連絡と無断欠席。遠藤さんの気配りから、山形会場の会員のレベルの高さがうかがえます。